



学校だより

はと広場

10月号

平成30年10月2日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

ホッと一息 本と一息

*2018 読書週間 標語 10/27(土) ~ 11/9(金)

校長 益子 聡

◆ 本のよさって なんでしょう

アナログでもデジタルでも本が読める現代。本のよさってなんでしょう？

絵本作家のレイン・スミスさんが絶妙なスパイスをきかせながら、シンプルに問いかけた本を紹介します。文字が少なく面白絵本『これは本』です。登場するのは本が大好きなサル君と、パソコンが得意で本を知らないロバ君。

— ある日、本を読んでいるサル君のところに、ノートパソコンを持ったロバ君がやってきて言います。

ロバ君；なに、もってるの？

サル君；本。

どうやってスクロールするの？

しない。ページをめくる。これは本だから。

ブログはしてる？

しない。これは本だから。

マウスはどこ？ メールできる？

できない。

ツイッターは？ Wi-Fiは？

できない。これは本だから。

困ったサル君は本を見せます。

本を開くと、その文字の多さに驚くロバ君。ロバ君は不思議に思ってサル君に聞きました。

「本って、ほかに、なんか、できるの？」

ところが、その本を読み始めたロバ君は止まらなくなりました。1時間、2時間、3時間たち…。

サル君；「ぼくの本、かえしてくれないかな？」 ロバ君；「だめ」

すっかり本の面白さに魅了されてしまいました — *『これは本』は、北浦和小の図書室に置かれています。

この絵本のロバ君のように本を読むことの楽しさを知ってもらえるようなきっかけや環境を作るためには、学校や家庭、地域社会の役割や支援が大切です。

◆ 家族の新しい読書の習慣 — 「うちどく（家読）」のすすめ

近年、最も小さな人間関係の場である家庭内での家族のかかわり不足が大きな社会問題になっています。その結果、子どもたちは無意識のうちに人とのコミュニケーションを回避するようになっていわれています。そして、友だちや周りの人との関係をうまく築くことができなくなり、不登校や引きこもり、暴力などの問題行動を起こすまでに発展することもあるようです。

このような中、子どもたちの読書の習慣を家庭にも広め、家族で本を読んでコミュニケーションし家族の絆づくりをすることを目的として提唱されているのが〈家読（うちどく）〉です。家読とは、家庭読書の略語で〈家族ふれあい読書〉を意味します。

家読には、特別なルールはありません。例えば・家族で同じ本を読む ・家読の日や時間を決めてみんなで読む ・読んだ本の感想をみんなで話し合う ・自分のおすすめの本を家族に教えてあげる ・ハウツー本を家読し、実際に家族で作ってみる（料理、折り紙、あやとり など） ・親が子どもに、子どもが親に読み聞かせをする など、本を介して親子で共通の時間と空間を共有することが考えられます。

秋の夜長、同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本についてお話していただければきっと楽しい時間となることでしょう。無理のない我が家のスタイルで家族が楽しく本を読む方法を見つけてみませんか？



平成最後の運動会。天候が不順な中での開催となりましたが、保護者、地域の皆様の声援に支えられ、北浦和小の子どもたちが自分で考え、行動し、全力を発揮できた充実の二日間となりました。

ご参観くださったご来賓の皆様、地域の皆様。最後まで温かい応援をくださったご家族の皆様、準備から後片付けに至るまで運営のお手伝いをいただいたPTAの皆様、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。